

道徳の時間で活用する ～個性の伸長～

山口市立大内小学校 池永 亜由美

1 本場面におけるポイント

- 話し合い活動により、様々な考え方、感じ方と出会い、それを通じて自己を見つめ、自己の内面を自覚することができるようにする。
- 資料から学んだことを自分との関わりで捉え、自分なりに発展させていこうとする思いをもつことができるようにする。
- 道徳の時間での児童の考えや変容の様子を見取り、評価する。

2 授業の実際

1 主題名 自分の長所を伸ばして

「資料名 うれしく思えた日から（出典：「わたしたちの道徳」小学校3，4年）」

2 ねらい 自分の特徴に気付き、自分の長所を伸ばそうとする意欲や態度を養う。

3 展開

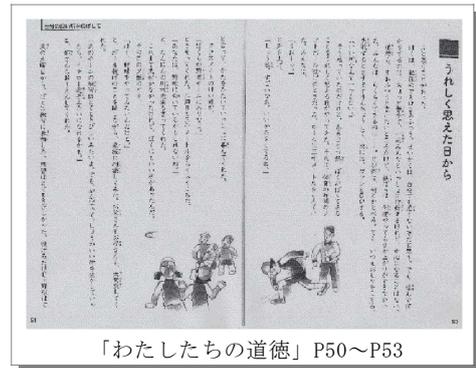
(1) 導入 自分のよさについて考えるという本時のめあてを確認する。

教師：自分のよいところは、どんなところだと思いますか。

A 児：わたしは運動が得意なのがいいところだよ。

B 児：自分にはいいところなんてないよ。

C 児：みんなの前で言うのははずかしいな。



「わたしたちの道徳」 P50～P53

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

自分のよさを発表した子を賞賛し、なかなか自分のよさには気付けないこともあることを伝えることで、本時の方向付けをする。

(2) 展開「うれしく思えた日から」を読んで、主人公の気持ちについて話し合う。

教師：自分のよいところが見えてきた主人公はどんな気持ちだったでしょう。

A 児：もっと野球をがんばりたい。そしてもっと練習して甲子園に行きたい。

B 児：いろいろなことができるようになってうれしい。

C 児：ボール投げ以外にも、自分にはこんなすごいところがあることを知らなかった。

D 児：自分のいいところを見つけてもらってうれしいな。



に記入後、話し合う。

□ 指導上の留意点・支援・「わたしたちの道徳」活用のポイント等

- ・主人公がもっと野球がうまくなりたいと思うのはなぜかを問い、主人公が自分のよさを伸ばしていこうとしている気持ちに気付くことができるようにする。
- ・主人公が、もし自分のよさを友達に見つけてもらっていなかったら、いろいろ

な力が伸びたかを問いかけ、自分のよさを知ることの大切さに気付くことができるようにする。

- ・児童の考えを見取りながら意図的に指名し、ねらいとする道徳的価値についての考えを深めていけるようにする。

(3) 終末 これまでの自分を振り返り、実践への意欲を膨らませていく。

教師：自分のよさについて友達に聞いてみましょう。

A児：自分にこんなよさがあったなんて、知らなかったよ。

B児：いいところを言ってもらえてうれしい。

C児：これからは、そのよさを大事にしたいな。



4年
サッカーがうまいと言われたから、ちもとと練習して、もう一回ワールドカップを優勝したい。バロンドールを受賞したい。
おもしろいと言われたから、しと字をきれいにまじらしたい。

※ グループで話し合った後、「わたしたちの道徳」に記入する。

□ 指導上の留意点・支援・「わたしたちの道徳」活用のポイント等

- ・グループで自分や友達のよさを伝え合う場を設けることにより、それぞれが自分のよさに気付くことができるようにする。
- ・「わたしたちの道徳」に、友達に聞いた自分のよさを記入することにより、自分のよさをしっかりと認識できるようにする。
- ・これまでの自分と比べながら、心の変容をワークシートに書くように促すことで、今後自分のよさを生かして生活していこうとする意識をもつことができるようにする。

3 実践を振り返って

児童は、資料の主人公の思いを追求することを通して、自分のよいところに気付くことのよさを理解することができた。終末段階では、資料から学んだことを自分との関わりで捉え、それを自分なりに発展させていくことが大切となる。そこで、ここでは「わたしたちの道徳」の記入による振り返りを行った。

児童は友達同士でお互いのよさについて伝え合い、伝えてもらったことを「わたしたちの道徳」に記入した。そのことによりワークシートの振り返りには、「いいところはないと思っていただけ友達に見つけてもらってよかった。」「自分のいいところをもっと見つけたい。」というような、今までの自分と比べたり、これからの自分について考えたりしている記述が多く見られた。このように、道徳の評価という視点では児童の考えや変容の様子を見取ることのできる「わたしたちの道徳」やワークシートへの記入は有効であった。

また、今後実践したいと思ったことは、記述したことに対して保護者にコメントを書き添えていただくことである。保護者に自分の長所を認められれば、さらにそれを伸ばそうとする意欲が湧いてくるであろう。今後は「わたしたちの道徳」を活用し、家庭の力を借りることを通して、児童の道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てていきたいと思う。

